健康福祉局 資　　料	No. 4

令和８年 11 月 19 日
課　名　健康福祉局子供未来応援課
担当者　担当課長（ネウボラ推進担当）池田
内　線　3175

ひろしまネウボラの取組状況について

１　要旨・目的

子育てに関する不安や負担を軽減し、子供を希望する人が安心して妊娠・出産・子育てできる環境整備に向けて、地域の関係機関と一体となって、妊婦や子育て家庭の不安や悩みに寄り添い、見守り、支援する仕組みである「ひろしまネウボラ」の構築を進めており、令和７年度の取組状況及び今後の対応について報告する。

２　現状・背景

○　令和８年度における「ひろしまネウボラ」の実施市町は 22 市町となっており、令和 11 年度までに全市町で実施されることを目指している。

○　「ひろしまネウボラ」の推進にあたっては、その機能や価値を市町や県民に浸透させるとともに、取組状況をモニタリングし、市町における取組の改善・強化につなげる必要がある。

３　概要

(1)　対象者

県内市町、県民（主に就学前の子供を育てる保護者）

(2)　取組内容

重点的に実施している取組ごとに指標を設定し、毎年市町からデータを収集し、モニタリングを行っている。（下記（５）参照）

(3)　スケジュール

―

(4)　予算（令和８年度）

195,513 千円

(5)　取組状況の主なもの（令和７年度）

ア　完全な全数把握（アプローチ率 100%）の実施

【指標】面談対象者のうち､状況を把握することができた人数の割合　　（令和８年６月末現在）

コンタクトタイミング	令和７年度	
	全数把握率	（参考）自主的面談参加率
母子手帳交付	100%	99.37%
乳児家庭全戸訪問	100%	97.06%
乳児前期健診（４か月頃）	99.96%	92.52%
１歳６か月児健診	99.80%	92.22%
３歳児健診	99.75%	90.98%

【結果】　市町職員の働きかけ（個別のアプローチ）などにより、５回全てのコンタクトタイミングにおいて 99%以上の状況把握ができている。

イ　関係機関との連携

【指標】関係機関との情報の共有方法が確立されている市町数

令和７年度における ネウボラ実施市町	共有方法が 確立されている市町
21 市町	21 市町

関係機関との具体的な共有方法や連携については、

- 保健師による定期的な園所への訪問や園長会での情報提供の判断基準の共有
- 関係者間での定期的な会議開催による個別ケースの今後の方針等の決定
- 乳幼児健診に係る個別ケースについての意見交換、支援方針の共有
- 医療機関と連携した、必要に応じた適切なケアやサービスの利用へのつなぎ

などが挙げられる。

【結果】　全てのネウボラ実施市町において、医療機関や園所など、関係機関との情報の共有方法が確立されている。

ウ　担当者による継続した面談～利用者との信頼関係の構築

【指標】出産や子育てに不安や悩みがあるときの相談先として思い浮かべる人の割合

ネウボラ相談員		23.4％
（参考） その他の想起した人の割合	家族や親族	95.5％
	友人・知人	58.9％
	幼稚園・保育所・認定こども園等の先生	26.0％
	かかりつけの医師	20.3％
	職場の同僚	18.4％

【結果】　全体では、相談先としてネウボラ相談員を想起する人は 23.4％と昨年度より 2.9 ポイント上昇した。

ネウボラ相談員の相談先としての想起率を高めるため、引き続き相談員のスキルアップなどに取り組み、面談対応力の向上を図る必要がある。

4　今後の対応

○　取組状況をネウボラ実施市町と共有し、市町におけるネウボラ業務の改善・強化を図る。

○　相談員の更なる面談対応力の向上に向けて、実践的な研修の実施による人材育成を図る。

○　初めて妊娠・出産を経験する家庭への支援を強化するため、第一子妊娠期の妊婦や子育て家庭に対する支援のモデル的な実施を進める。

○　ひろしまネウボラの全県展開に向け、取組状況を未実施市町と共有し、導入に向けた働きかけを行っていく。